

二〇一七年三月二日(参加者一六名)

花あせび雨滴に鈴を落しさう	はく子
芽吹き初む枝に雨粒滂沱なる	はく子
紅白の梅綾なして丘埋む	はく子
梅真白石の櫃の門へかざし	菜々
あたたかや水子地蔵は供華囀ひ	菜々
亡き友の思ひ出語り梅探る	菜々
白梅のなだれ咲く丘匂ひけり	小袖
朱の門の一步に園の梅香る	小袖
春雨のリズム生まるる鎖樋	小袖
佇めば珊瑚礁めく梅の丘	せいじ
春の雨彩色しるき多宝塔	せいじ
梅が枝の蕾に紛る雨滴	せいじ
春雨の珠こぼれ落つ鎖樋	うつぎ
鎖樋せせらぎの楽春の雨	うつぎ
立浪のごとくに丘の梅白し	うつぎ
裸木の珠と散りばむ雨雫	うつぎ

梅の丘読経を流すスピーカー	こすもす
Vサインしても芽出づ汀かな	こすもす
梅林の雨のベンチは役立たず	たか子
閻王と目の合ひてより春愁ふ	たか子
堅く閉じ雨を拒みし椿かな	なおこ
参磴を春雨傘の登りくる	なおこ
適適と春の雨音くさり樋	宏虎
梅林の奈落に響く読経かな	ぼんこ
満開の梅林迷路めきにけり	よう子
楼門の甍を濡らす春の雨	よし子
石棺へ雨の羨道春寒し	満天
石窟の羨道暗く菜種梅雨	わかば

定例会の選

二〇一七年三月二日(参加者一六名)